

# 農業技術 プリズム

ブロッコリーの根こぶ病を効率的に管理するためには、圃場（ほじょう）の発病リスク（発病のしやすさ）を把握し、適切な対策を選択する土壌病害管理手法「ヘソディム」が効果的です。

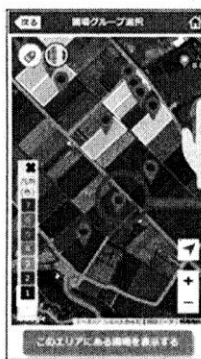
この管理方法を導入することで、管理コストと環境への負荷を軽減できます。土壌中の根こぶ病菌密度と土壌pH（ベジタリア株式会社サービス）を調べることで、圃場ごとのブロッコリー根こぶ病を診断できる、スマートフォン・PC用のアプリケーションを「あい作」（株式会社NTTデータのサービス）に搭

載しました。これを利用すると、ブロッコリー圃場の「根こぶ病菌密度」「土壌pH」「診断結果」「対処方法」など、計8

## ブロッコリー根こぶ病管理 「ヘソディム」で可視化 コストと環境負担軽減

項目をマップ上に表示することができ、根こぶ病発病リスクの見える化や対策指導、汚染拡大を回避するための作業

根こぶ病リスク診断結果情報	
【基本情報】	圃場ID: 161000, pH: 低い
【診断実施日】	2020/09/18
【圃場の発病】	不明
【検体ID】	A0350
【診断結果種類】	7
【土壌pH】	5.52
【診断結果】	根こぶ病菌が検出され、発病の可能性は極めて高い状態です。土壌pHは低い状態です。



「あい作」マップ上での各圃場の根こぶ病診断結果の見える化と対策指導の表示

計画策定に用いられます。予防のために施用していた薬剤について、施用の必要がない圃場を把握でき、産地実証で薬剤購入量を約4割削減できました。今後、県内ブロッコリー産地での普及で、持続可能な農業の推進が期待できます。

（長崎県農林技術開発センター 研究企画部門 研究企画室 専門研究員 大林憲吾）